



2024年8月25日
第34号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

8月25日号

8月6日、広島では原子爆弾投下から79回目の夏を迎え、今年も真夏の晴天のもと、平和記念式典が行われた。湯崎英彦広島県知事の挨拶が考えさせられるものだったので一部抜粋して紹介する。

《現在も、世界中で戦争は続いています。強い者が勝つ。弱い者は踏みにじられる。現代では、矢尻や刀ではなく、男も女も子供も老人も銃弾で撃ち抜かれ、あるいはミサイルで粉々にされる。国連が作ってきた世界の秩序の守護者たるべき大国が、公然と国際法違反の侵攻や力による現状変更を試みる。それが弥生の過去から続いている現実です。いわゆる現実主義者は、だからこそ、力には力を、と言う。核兵器には、核兵器を。しかし、そこでは、もう一つの現実はいかように無視されています。人類が発明してかつて使われなかった兵器はない。禁止された化学兵器も引き続き使われている。核兵器も、それが存在する限り必ずいつか再び使われることになるでしょう。私たちは、真の現実主義者にならなければなりません。核廃絶は遠くに掲げる理想ではないのです。》

まさしく、今の混沌とした世界情勢をとらえた言葉だと感じる。8月15日には日本も多くの人が傷つけ傷ついた太平洋戦争から79年目を迎えた。世界情勢では、ロシアとウクライナの戦争は先日侵攻開始から900日を超えた。イスラエルとパレスチナの衝突では、4万人にも及び罪なき子どもや女性を含む市民が亡くなっている。

争いは相手の立場や違いを否定することから始まり、それが国家間では戦争になる。お互いの立場や違いを認め合うことで、平和な世へと近づける事が出来るのではないか。

私は広島や沖縄で戦争の惨禍を学んできた。力には力をとこう考えは悲惨な結末しか生まない。相手の立場や考えを理解し、歩み寄ること。互いを理解すること。平和な社会を築いていかなければならない。

(T・T)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。